

平成24年11月19日
独立行政法人森林総合研究所
林木育種センター
九州育種場

**地元地域と手を携えて
絶滅危惧種ヤクタネゴヨウを守る取り組みを開始**
—熊本うまれのヤクタネゴヨウの子供たちが屋久島へ里帰り—

独立行政法人森林総合研究所林木育種センター九州育種場では、平成6年から平成10年にかけて、絶滅危惧種で鹿児島県の屋久島と種子島にのみ自生するヤクタネゴヨウの約100個体から穂(枝)を採取し、九州育種場に持ち帰って、つぎ木により増殖し、九州育種場内に保存しました。今回の取り組みでは、これらの屋久島産のヤクタネゴヨウのつぎ木個体の中で人工交配して殖やした苗木約600本を自生地の一つである屋久島に、地元地域と手を携えた共同研究の一環として里帰りさせます。これらの苗木は、熊本うまれですが、血筋は純粋な屋久島のヤクタネゴヨウです。

ヤクタネゴヨウは、レッドリストで絶滅危惧IB類(EN)とされており生息地では壮齢・老齢木の減少が著しく、次の世代を担う若い個体もほとんど見られないことから長期的視点に立った種の保存のための研究と得られた知見に基づいた保全策が必要とされています。

今回の里帰りを皮切りに、様々な人工交配組み合わせで殖やされた苗木について屋久島の自生地外での適応性等を把握するための共同調査・研究が開始されます。共同研究のパートナーは、屋久島町や現地のNGOである「屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊」です。

一部の苗木は11月24日に屋久島町の5周年記念事業の一環として記念植樹される予定です。

※ヤクタネゴヨウ

ヤクタネゴヨウ(*Pinus amamiana*)は、マツ科マツ属の針葉樹で、鹿児島県の屋久島と種子島にのみ自生する。

※レッドリスト

レッドリスト(*red list*, RL)とは、絶滅のおそれのある野生生物(動植物)のリストで、最初のレッドリストは、1966年に、国際的な自然保護団体である国際自然保護連合(IUCN)によって作成された。日本では環境省が2012年版を公表している。

※絶滅危惧IB類(EN)

絶滅危惧IB類(EN)は、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

※絶滅危惧IA類(CR)

絶滅危惧IA類(CR)はごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

※記念植樹

平成24年11月24日(土)に、屋久島総合自然公園(仮)にて実施予定。記念植樹に関するお問い合わせは、屋久島町環境政策課(0997-42-0100)までお願いします。

お問い合わせ先
林木育種センター九州育種場
担当者：有村・高橋
Tel.096-242-3151
Fax.096-242-3150

<参考写真>



鹿児島県の屋久島に世代を超えて里帰りするヤクタネゴヨウの苗木



自生地で収集し、熊本県の九州育種場につぎ木保存しているクローン
(里帰りする苗木の親木)



着果したつぎ木クローン



ヤクタネゴヨウ（写真左）は5本の針葉、クロマツ（写真右）やアカマツの針葉は2本